

作者プロフィール

柚木 文夫氏 千葉県隊友会会員 習志野支部長 桧町陸幕 平成2年退官 1958年防衛大学卒
元防大山岳部監督 現自衛隊山岳連盟会長

甲武信岳－シャクナゲ街道－



甲武信岳(木賊山中腹から)

7月上旬、日本百名山の一つ、奥秩父・甲武信岳（2475m）に出かけた。甲州、武州、信州にまたがるから「甲武信」と、何の面白味もない名前だが、若い頃は、笛吹川と千曲川をつなぐロマンに惹かれて、四季を問わずよく出かけた山である。荒川、千曲川、笛吹川の源流を成す甲武信岳は、正に奥秩父山系の核心である。

今回は、山梨県側の戸渡尾根を登り、雁坂峠から下った。

JR中央線が遅延し、登山口の西沢溪谷入口バス停に降りたのが11時15分。夕方までに甲武信小屋に行き着ける



徳ちゃん新道

か心配だが、意を決して歩き始めた。11時45分、徳ちゃん新道入口。雑木林の中、スズタケを掻き分けての直登が始まる。なかなかの急傾斜。スズタケは30分程で終り、13時頃からは尾根

道の傾斜がいくらか緩くなり、シャクナゲのトンネルが始まる。花がすっかり終わっているのがいかにも残念である。

14時、ヌク沢道を右に合わせた頃から、道は岩場気味になり、どんどん高度を稼ぐ。森閑としたコメツガやシラビソの林の中、忘我の心境の山登りというのは、実は負け惜しみ。すっかりクタビレ果てて16時45分、ようやく甲武信小屋に転がりこんだ。

客は小生一人だけ。小屋の名物オヤジ・徳さんとの山談義に、すっかり酒も進んだ。



甲武信小屋

翌朝
5時20分
出発。
20分
程で着
いた甲
武信山
頂は、
ガスで
視界な

し。あきらめて小屋に戻り、主稜線を雁坂峠に向かう。シャクナゲに覆われた尾根道を木賊山、西破風山、東破風山、雁坂嶺とたどるが、岩尾根伝いの登り下りの連続は、どこかアルプス並みの雰囲気があって楽しい。

9時半雁坂峠。北アルプスの針ノ木峠、南アルプスの三伏峠と並んで日本三大峠の一つと言われるこの峠からの景観は、さすがに雄大である。

後は峠沢の中をどんどん下り、雁坂峠入口の道の駅「みとみ」に飛び込んだのが13時。そして例によって風呂とビールの定番で一日を締めくくった。



甲武信山頂からの眺望(左から富士・乾徳・奥千丈・朝日岳)